

組手競技



副審2人制

札幌地区空手道連盟 2024.12.15

全空連での採用基準

- ①全空連主催・主管の全国大会に繋がらない大会
- ②対象は小学生、中学生、高校生
- ③審判を確保できる場合は通常のルールで行う



基本的な考え方

- ①「役割」「権限」「責任」は通常ルールと同様
- ②人数が少ないため、相互にサポートし合う



ルールブックとその後の変更

1. 副審 2 名の場合、副審と主審は、相互に得点に対する責任を持つ。副審の合図は旗を使用する。
2. 副審は得点を示すだけでなく、規程違反の場外、過度の接触、スキンタッチを合図し主審を補佐する。しかし、ウォーニング及びペナルティは主審が適用する。
3. 副審 2 名又は副審 1 名と主審が得点を示した場合、得点を与えられる。
4. 主審は、3 つの角度を全てカバーするために、副審 2 名と同じ側に立たないこと。
5. コーチは主審の前方に配置し、後方には配置しない。
6. 主審は、自身の可動域で行われた得点に対して、支持を示したり、求めたりすることができ。この場合、主審の有効、技有、1 本の合図は、通常の組手競技規程と同様。ただし、合図をする際、主審の肘が脇腹に触れたまま行う。主審が支持を受けた後、得点を与える際の合図は通常の競技規程と同じである。

ルールブックとその後の変更

7. 副審1名が得点、もう一方がウォーニング又はペナルティを示した場合、主審はどちらかの副審を支持し、最終的な判断を下す。
8. 副審2名、又は副審1名と主審が同じ選手に対して異なる得点を示した場合、高い方の得点を与える。
- 削除 9. ~~副審1名のみが意思表示し、主審が別の意見を求めたにもかかわらず副審が意見を変えない場合、主審は得点、ウォーニング又はペナルティを与えることなく試合を再開する。~~
- 削除 10. ~~双方の副審が同じ競技者に得点を示した場合、主審はその意見に背くことはできない。スキントッチその他のウォーニング又はペナルティの場合のみ、主審は副審に再考を求めることができる。~~
11. 双方の副審が異なる競技者に得点を与えた場合、主審は両方の得点を与える。
12. 14歳から15歳の種目では、蹴り技に限りスキントッチが許される。
スキントッチとは、衝撃を頭や体に伝えない状態で得点部位に触れさせることと定義する。
14歳未満の競技者は、上段技のスキントッチは認められない。

ルールブックとその後の変更

削除



場外

床を横にたた
く



接触

顔面横に旗を交
差する



注意

肘を曲げ、旗を
揚げる



反則注意

旗を腹部に向ける



反則

頭部に向けて顔面
の高さに旗を向け
る

主審の権限とポイントの取り方

- ①プッシング・掴み・場外・コンタクト等は、5人制と同じく主審の権限で取れる（副審の同意し）
- ②同色の旗が2本出た場合は、ヤメをかけてポイントを取る（コンタクト等があれば注意を取る）
- ③副審の旗が1本で、主審がポイントで無いと思えばヤメをかけないで流す事が出来る
- ④副審の旗が1本出て、主審が同じ赤・青のポイントを認めた場合はヤメをかけてポイントを取る

主審の権限とポイントの取り方

- ⑤旗が出ていない状況で、主審がポイントを認めた場合は、ヤメをかけて所定の位置で、有効・技有・1本のゼスチャーを示し、再考を促し副審1名でも同意があればポイントを取る事が出来る
- ⑥上記で同意が無い場合は、ポイントを取れない

主審の権限とポイントの取り方

- ⑦赤・青の旗が1本ずつ出ていてヤメをかけた場合は、
両方のポイントを取る事となる

※赤・青の旗が1本ずつ出た場合、必ずヤメをかけなければならないのか？スルーすることは可能か？

→全空連の説明では

「1本ずつ出たときは必ずヤメをかけてポイントを取る」

- ⑧判定の場合は、主審も同時に上げる

ヤメについて

①ヤメをかけなければならない場合

- ・ 副審 2 名が同じ選手にポイント、ウォーニングを示した時

→ 基本的に副審に従う

ただし、変更することは可能

コンタクト→無防備

場外→プッシング

- ・ 副審が赤と青それぞれにポイントを示した時

→ 両方にポイントを与える

ただし、変更することは可能

ヤメについて

②ヤメをかけなくても良い場合

- ・副審1名がポイント、ウォーニングを示した時

→主審が同調しない場合ヤメをかけずにスルーすることができる
ただし、ヤメをかけてしまったら③

③ヤメをかけた場合

- ・副審1名がポイント、ウォーニングを示した時

→副審に従わなければならない
ただし、変更することは可能

コンタクト→無防備
場外→プッシング

ヤメについて

④ヤメをかけることができる場合

- ・主審がポイント、ウォーニングと判断（副審は示していない）

a.ポイントと判断した

有効、技有、1本のジェスチャーをし、副審の意見を聞く

→副審が1名以上同調したらポイントを与える

→同調されなければ、ポイントを与えず「続けて始め」

b.ウォーニング・ペナルティは主審の単独判断

※通常のルールと同様

副審の役割

- ①副審の座る位置は、5人制のJ2とJ3に座る
- ②ポイント・場外・コンタクトを見る事になり旗でも表示する
- ③場外は、出た方の旗で床をタップする
- ④コンタクトの場合は、赤と青の旗を交差させる
- ⑤主審がポイントを再考した場合同意する
(同意しなくてもよい)

特に気を付けなければならないこと

1. 主審は、副審側と反対サイドで起こったことについて、責任を持たなければならない。
2. 副審は主審から見える技については慎重に判断する。
3. 主審と副審のパワーバランス